

## 環境配慮型の梱包イノベーション

### ◆TVの梱包緩衝材を発泡スチロール製からバイオマス素材に変換するソニー

ネット通販などECが拡大するなか、環境への配慮から梱包資材の改良、再利用化、簡素化などの動きが各社で加速している。2024年4月、ソニーは業界で初めて大型テレビに採用している発泡スチロール製の緩衝材を廃止し、カネカの「生分解性バイオポリマーGreen Planet」を採用すると発表した。

対象商品は、香港・台湾向けの薄型テレビ「BRAVIA9」で、大型で重量のあるテレビの緩衝材は、輸送時の耐衝撃性を確保するため、商品のデザインに合わせた複雑な形状に成型する必要がある。同社は自社の包装設計ノウハウとカネカの材料成型技術を用いて、専用金型を開発し、耐久性を実現した。カネカのGreen Planetは100%バイオマス由来で、植物油などのバイオマスから微生物を利用して生産する。土壌中だけでなく海水中でも分解され二酸化炭素と水に戻る。

### ◆梱包資材の再利用化を目指すcomvey、梱包サイズの最適化をはかるアマゾン

「美しい物流をつくる」を掲げるcomvey（コンベイ）は、繰り返し使える「シェアバッグ」を開発し、梱包ゴミの削減を目指している。バッグはポリエチレン生地を採用し、50回以上再利用が可能だ。23年4月からサービスを開始し、利用者は、同社と提携するECサイトで「シェアバッグ」を選択して購入し、商品を受取り後、バッグを折り畳み、ポストに投函し返送する。comveyに返送されたバッグは洗浄後、再びEC事業者提供される。利用者には特典が付与される。日本郵便との連携により利用者の送料負担はなく、comveyも新たな回収拠点を設ける必要がない。現在、大手アパレルなど6ブランドが導入している。

米アマゾン・ドット・コムも梱包の改革を進めている。一時、自動化設備で効率化を追求したが、中身に対して段ボール箱が大き過ぎるという課題が生じたため、人による作業と機械学習とを組み合わせる梱包サイズの最適化をはかっている。さらに23年からは段ボールや紙袋に入れられない梱包無しにも取り組んでいる。

梱包の最大使命ともいえる製品の保護を担保しつつ簡素化、再利用化を目指す取り組みは、ハードルが高いがこれからの優先課題となるだろう。【秋元真理子】